

## ‘地下学生’はどこへ行く。 ～女子高生が「愛」を見つけた場所～

### ◆企画の概要と主旨：

「いつも電車で一緒の女子高生、居場所はちゃんとありますか？」

近年、居場所を求めて性産業に走る女子高生のニュースが頻繁に取り上げられます。「JK 産業」は現在解決すべき問題であるにもかかわらず、人々は問題意識を持っていないのです。（JK 産業とは、女子高生に男性向けのサービスを行わせる業務形態の総称です。）世界の女性のほとんどが誰しも女子高生を経験し、そしていつか母親になり、子どもを育てるのです。そんな彼女たちが自分の居場所を見つけられず、自殺や非行、売春など社会の暗い部分へと埋もれてしまっているのは問題ですよ。女子高生たちが居場所から逸脱する原因と打開策を、その核となるインタビューやフィールドワークを中心に綴った内容です。

### ◆企画者プロフィール：

私は現在、京都大学の総合人間学部認知神経科学系に在籍しております。私はさこゆうた（さこゆうた）と申します。私には今まで、元元恋人が親の離婚によるストレスにより自殺未遂を行う、元恋人がレイプ被害に遭い、その後売春を始めるなど、居場所と心  
の問題について真剣に考えさせられる機会が二度もありました。



「日本の性産業の原因はコミュニティの質の低下にある」

この二度の出来事を経て「全ての若者の人権が守られ、安心して生きられる居場所のある社会」を作らねばという思いから学生団体 SMILE を創設し、40 名の代表として日々休むことなく活動をおこなっています。

私は数え切れないほどの方々の想いを背負っています。肩書きや数字では他の人には劣るかもしれませんが、学生という枠の中で JK 産業についてこれだけの経験と、日々足を休めず動く行動力や強い想いは絶対に誰にも負けません。女性なら誰しも無視できない問題であり、さらにこの問題は「男性」が考え始めない限り、解決には向かわないのです。

### ◆構成案：

- 一章: いつも電車で一緒の女子高生、居場所はちゃんとありますか。
- 二章: JK 産業の地で感じたのは、愛に飢える彼女たちの実態でした。
- 三章: 彼女たちはなぜ“体を売る”ことを始めるのでしょうか。
- 四章: 必要とされたいという思いを、どうやって満たしていますか。
- 五章: 薬は病院にあるのではなく、あなたが持っているのです。
- 六章: 選択肢がひとつだから、選びようがない。だったらその選択肢、増やせばいいじゃないですか。
- 七章: この「女子高生」はあなたかもしれないんです。

◆見本原稿：

【二章 一部抜粋】

「なになに〜お兄さん何の調査〜?笑」  
そういうながら照れ笑いするのは十七歳  
の女子高生 Y ちゃん。

時刻は二十一時。ここ秋葉原の電気街で  
は毎日女子高生が等間隔に店舗の前に立  
ち、客探し、をします。



彼女らの職場はマ  
ッサージ店やバー  
など様々です。男性  
を見つけては声を  
かけ、買ってくれる  
お客さんが決まる  
と店に一緒に入っ  
ていきます。

ついでにしました。

「寒くない?」

「寒いに決まってんじゃない?」

「何のためにお金が必要なの?」

「服が欲しいの。服が欲しいからこのバイ  
トしてる。でもこんなことしてたって、思  
ってるよりお金入らないだー。」

もともと友達紹介で始めた、彼女は  
そう言います。埼玉から通っている彼女は、  
バイト終わりに家へ帰ると二十四時を回  
ります。

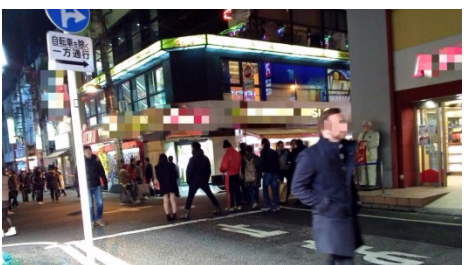
「お母さんには怒られない?」

「やあ、どうかな。笑 私、このことお母  
さんには言っていないも。居酒屋とか言っ  
てしまかしてるからばれないよ。友達にも  
言っていない、誰にも。」(中略)

【五章 一部抜粋】

歌舞伎町を見渡して気づいたこと。それ  
は、ビジネスの勝敗、です。女子高生が  
儲かるビジネスを作り出すのも、女子高生  
に存在意義を与えるのも、性産業のほう  
が他の産業より何枚も上手をいっている。誰  
が悪いとか、誰が間違っているとか、そう  
いった議論とは関係ありません。僕たちが  
女子高生のニーズを満たす他のビジネス  
を提供する力がないだけなのです。

僕は彼女たちを、否定も肯定もできませ  
ん。心からそう思います。彼女たちは、た  
だお金が欲しかったり、ただ居場所が欲し  
かったりするだけなのです。



そしてその両者  
を与えることが出  
来ているのが、性産  
業に従事する大人  
たちです。彼らこそ  
が女子高生たちの  
ニーズをうまく具  
合に満たしていま  
す。ただ、ただ、そ  
れに過ぎないので  
す。

これが今の日本社会です。

だから問題を根本から変えたいなら、僕  
たちは、いつまでも喚いて文句だけを言っ  
ている場合ではありません。

奴らは頭を使って、彼女たちに迫ってい  
ます。

ならば僕たちも負けてはいられない！  
奴らに勝たんとするビジネスと居場所  
づくりをしていきます。…(中略)